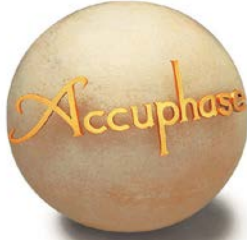


■オーディオは、長い間に創られた貴重な文化



オーディオ機器の音は無色透明であるべきか、個性的な色づけをされた楽器的なものであるべきかという論議は、オーディオの創世時代から繰り返されています。論議はともあれ、マイクからスピーカーに至るあらゆる機器は、色付けを取り除くための技術の積み上げによって今日の音を生み出していることは間違いありません。それにもかかわらず、一つとして同じ音のスピーカーは無く、同じ音のアンプもありません、デジタル技術を使った機器でも個々に違った音色を持っているからです。

オーディオ技術は高度に進歩しました。しかし測定データは同じでも音は同じとは限りません。この理由は、測定技術は人間の感性や深さに達していないことを意味しており、ここにオーディオの趣味性や創造性が生れます。

オーディオ機器の理想像は、そこにある機器の存在を忘れて音楽に没入できるようなものであり、アンプについて言えば、録音された信号を、ひずみなく正しく増幅してスピーカーに送り込むことです。しかし言葉では簡単でも、正しくスピーカーをドライブしているかどうかは、音によって主観的に判断する以外に方法はありません。そして、プログラム・ソース、プレーヤー、アンプ、スピーカー、室内音響などが持つキャラクターが相互に関連しあって多様な音の味が生れます。

味覚に個人差があるように、音にも人それぞれの好みがあります。ハイエンド・オーディオの楽しみは、好みのコンポーネントを集め、最高の音を求めて、その人独自の音を能動的に創造する自己表現の場とも言うことができます。

味覚に個人差があるように、音にも人それぞれの好みがあります。ハイエンド・オーディオの楽しみは、好みのコンポーネントを集め、最高の音を求めて、その人独自の音を能動的に創造する自己表現の場とも言うことができます。

■音を創る…

音楽を文字で表現するのはむずかしいものです。幸い音楽の場合は、オーディオという再生装置があり、演奏会場の臨場感あふれる音を自宅に居ながらにして聴くことができます。しかも、最近では演奏会場の音を忠実に再現するだけでなく、聴く場所や聴く人の好みに合わせて、音を“創造”することも可能になっています。

音楽の楽しみ方は多様性があり、一人一人、好みの音楽のジャンルが違い、音の魅力の感じ方・考え方、感性、聴く環境が異なるように、一様でないところがオーディオの面白いところです。音は形として存在しない、見えないモノですから、『無限の魅力を持つ…』という言葉がよく使われます。

オーディオは、お客様が自分の好みの音を、ご自身の感性で創り出して行く高尚な趣味の世界です。そしてオーディオ機器は、音楽を良い音で聴き、そこから『無限の感動』を描き出せる一つのツールと言えます。

■音の違いは、なぜ？

特性数値は再生機器の質を表現する重要なファクターですが、オーディオ機器が再現する音楽のディテールや雰囲気はメーカーや機種によって微妙に異なります。そして、その表現力こそ、その製品の価値を決めます。しかし、残念ながらその差は、最新の如何なる測定技術を駆使しても、分析することは出来ません。その理由は、構成する素子に微妙な音質的個性があるからです。

従って、最後は個々の素子を取り替えながら音楽を再生し、微妙に変化する音質を我々の聴覚で判断します。この音楽的表現力の練り上げこそ、人間の感性に委ねられた部分で、最も大切に厳粛な過程です。アキュフェーズはこの段階に、技術開発とほぼ同じ期間をかけて試聴を繰り返します。

■オーディオの楽しみ

アキュフェーズの使命は、いつまでも安心して使える付加価値の高いオーディオ機器の提供にあります。すこぶる高度な趣味商品であるオーディオ機器は、無くては生活に不便はありません。しかし、私たちの心と感性を豊かにし、人間らしさを養うためには音楽はなくてはならないものです。この素晴らしい音楽を、好きな時に自在に聴くことが出来る、しかも自分好みにアレンジできる、これこそがオーディオの醍醐味です。アキュフェーズは提供する製品を通してこのお手伝いができることに至上の喜びを感じています。

■オーディオ・ソースの多様化

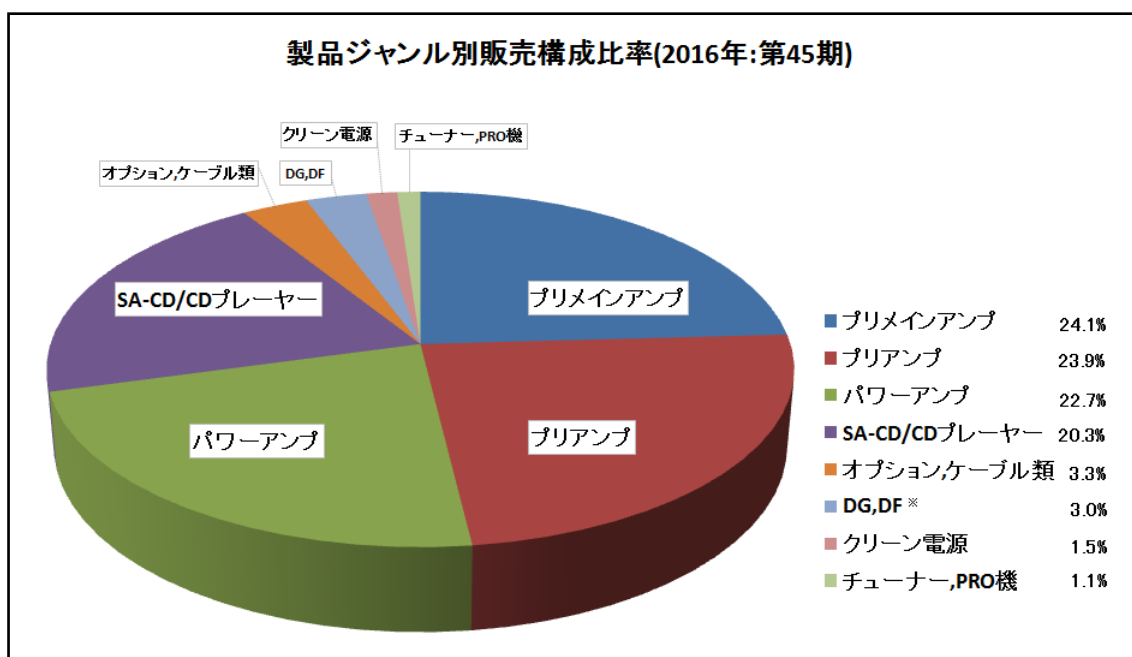
オーディオ機器もそれぞれで音の違いがありますが、それを演奏する音源も多種多様で、絶対的な物はありません。成熟した伝統ある SA-CD/CD などのパッケージ・メディアはもちろん、最近人気復活してきた懐かしいアナログ・レコードや FM 放送、そして最新のデジタル技術を駆使したハイレゾ音楽配信やストリーミングなどは全て、音楽を楽しむための音源として大切なソースです。

このように、素晴らしい音楽ソースが増えることは大歓迎です。アキュフェーズはこの多様化したソースに対し、それらが共存でき、その良さを 100%引き出せるような製品構成として、性能の進化が確実に音へ反映されるよう、極限まで製品を創り込み、それらハード・ソフトの継続のためあらゆる可能性に挑戦して行きます。

■アキュフェーズの製品構成

アキュフェーズは『オーディオ製品』、その中でも『高級品』に相応しい領域に限定した、アンプやプレーヤー関連の開発・製造・販売をしています。これは、世界の一流品と呼ばれる製品を創るには、量ではなく『技の匠』に徹する必要があるからです。

現在、アキュフェーズの売上比率を見ると、アンプ、プリアンプ、プリメインアンプ、SA-CD/CDプレーヤーが4本の柱となっています。今後オーディオ業界全体が大きく伸びることはあまり期待できませんが、アキュフェーズは、独自の技術として大きな強みになっている、クリーン電源/ヴォイシング・イコライザー/チャンネル・ディバイダーなどと繋がりを持ち、一つ一つの内容を徹底的にこだわったモノにし、デジタル/ソフトウェア技術の積極的な活用によって、新しいオーディオ市場を創造して行きます。



■継続の力

更に大事なことは、企業の継続です。アキュフェーズ製品をご愛用頂くお客様のためにも、企業体質を良くして事業活動を継続しなければなりません。

アキュフェーズ製品は日本で製造して輸出しますから、海外での販売価格は、輸入代理店のマージンや関税等により、日本よりもはるかに高くなってしまいます。しかし最近の傾向として、高額製品もよく売れるようになってきました。これは、製品の魅力度（音質・性能）はもちろんですが、アキュフェーズ独自の一貫した企業ポリシー・経営姿勢や壊れにくい品質の良さが、海外のユーザ

一にも理解・浸透してきたこと…40年間継続の力：モデル・チェンジの度に性能が一層進化し、それが確実に音の良さへ反映されて行く、これらが価格を超えて、良いものが適正に評価されてきた結果であると思います。

日本の市場でも、同じ事がいえると思います。お客様を大切に、裏切ることなく、信頼されるメーカーとして、地道な努力を重ねて、何時までも継続する力が、長い間に少しずつ企業イメージを、そしてブランド価値を高めてくれ、これがさらなる企業継続に繋がって行きます。このため、オーディオ機器は長期に亘ってお使い頂く製品ですから、それに対する『アフターサービス関係』は、これからますます重要なキーワードになって来ます。

■これからのハイエンド・オーディオ

ハイエンド・オーディオは元々小さな市場です。さらに少子化やユーザーの高齢化も加わりますので、市場の拡大は期待できません。しかし、音楽は無限の可能性を与えてくれるもの、人間が生きている限り不可欠です。この中で、アキュフェーズの目指していることを、人類に必要なオーディオ文化ととらえれば、将来に対する不安はなくなります。

オーディオは、趣味の世界ですので、個々のこだわりや好みなどは多種多様です。これからは今以上に、その音楽を奏でる、ユーザーの消費ニーズに合った製品開発、『高付加価値』はもちろん、『高音質』『高品質』に加えて、『感動』『こだわり』『満足感』など、人間の感性や情緒に訴えるような《無形の魅力を持った製品創り》が必要になるでしょう。

《規模は小さくても、成熟した感性や技術で新たな付加価値を生み出す会社…》、性能が良く・品質が良いのはもちろんですが、『良いモノを安く売る』のではなく『良いモノが、その価値にマッチした適正な価格で』売れるように、ブランド価値に磨きをかけ、いつまでも存在感や影響力のある企業であり続けたいと思います。

そしてなによりも、アキュフェーズは、お客様から信頼されるメーカーとして、この深遠なオーディオ文化を皆様と一緒に発展させて行きます。これからもお客様に愛され、私たちの心を癒し・豊かにする、魅力あふれる製品を創り続けて行きます。

